

「資生堂レディス」の練習場で「Recoil DART」を試していた原英莉花。ツアー担当者によれば「昨年使っているATTAS FFで問題はないのですが、少し軽くしたいとのことで、重量を95gから90g前半にしようと話していて、良い機会なのでRecoil DARTも試すことになりました」とのこと。原英莉花は「動かない(ヘッドが)のが良いですね」と感想を漏らしていた。



原英莉花

※ショット写真のシャフトはATTAS FF。

8月2日
発売予定

USTマミヤからは注目の2モデルがリリース

アメリカで最も売れている アイアン用カーボンシャフト Recoilの進化版

Recoil DART

USTマミヤ/リコイル ダート

中調子でタイミングが取りやすく、使い手を選ばないのも特徴。カーボンの良さを発揮しつつも、スチールシャフトのしっかりしたフィーリングを感じることができる。

※写真は発売前のプロトタイプ

計算された“しなり”で コロがりよくする パター用カーボンシャフト



リハナ

USTマミヤの契約プロであるリハナは、以前から「ALL IN」を愛用している。写真では「ALL IN」のストレートが挿さったパターを使用しているが、「レトロフィット」「フルカーボン」を挿したパターも所持しているとのこと。

トルクをダウン
パットに安定感をもたらす
パター用カーボンシャフト

米国ではすでに販売中のパター用カーボンシャフト「ALL IN（オールイン）」が、日本でも発売されることとなった。どんなシャフトなのか、ツアー担当者に話を聞かせてもらった。

「オールインには、まず「フルカーボン」、スチールチップが付いた「ストレート」、そして「レトロフィット」といってシャフトを切ってパターヘッドに差し込む仕様の3タイプがあります。

一般的なスチールシャフトと比べるとボールの初動が伸びて、ショートパットが安定します。ロングパットの距離感と、重さがあるのでストロークも安定しますね。たわみとネジレを抑制することで、フェースアングルの安定性がアップします。オフセンターヒット時のコロがり(距離)のブレを最小化してくれます」

一般アマチュアだとなかなか感じ取れないが、パターのシャフトもストローク中にしなっている。そこには余計なたわみやネジレが生じている。もう少しパッティングを向上させたい。そんなゴルファーは一度試してみてもどうだろうか。

ALL IN

USTマミヤ/オールイン

「ALL IN」によってショートパットにもロングパットにも安定したコロがりを得られるのなら、スコアアップは間違いなしではないだろうか。

方向性と安定性を兼ね備えた新「DARTテクノロジー」

米国では純正シャフトに採用されることの多い「Recoil（リコイル）」シャフトで、リディア・コガ使用したことで知られている。その進化版が「Recoil DART」だ。

シャフトのつづれ戻りによる反動をスピードに変換し、飛距離性能の高さが特徴の「Recoil」に、新たに「DARTテクノロジー」を搭載。シャフト先端部に従来よりも多くバイアスの補助を採用し、余計なつづれとネジレを抑制。これによって、インパクト時のボールとの衝撃や高MOIヘッドの影響による当たり負けやヘッドのブレを最小化し、方向性を向上。狙える「アイアンショットをサポートしてくれるというわけだ。